

「0か100か」

校長 高田 晶子

過ごしやすい日が続いています。気持ちの良い青空を見上げることも多くなり、空を飛ぶ飛行機を見る機会も増えてきたように感じます。世の中は、コロナ禍以前のような生活に戻りつつあるのでしょうか。学校生活はもうしばらく感染防止対策を取りながらになりますが、お陰様で行事や面談等を順調に実施しております。



また、今月から町会の皆様にもご協力いただき、町会集会を実施する予定です。地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、物事が決まっていると行動するのが楽だなと感じたことはありませんか。私自身、若い頃は「言われた通りにやる」それが当たり前のように思っていたこともありました。自分で考えるよりも説明を聞いてその通りに行動することの方が正しくて、そこからはずれてしまうと間違っていると強く感じたりしていました。このような思いは、生活の様々なところで感じることもあります。誰かに「0か100か」を示してもらうことで、正しい行動をしたい、間違えたくない、という思いからでしょうか。

10月下旬から3年生の校長面接を3名1グループで実施しています。面接の中で、課題について自分の考えを1分間でまとめ、お互いに意見交換を行います。意見は三人三様ですが、生徒たちはお互いの意見を頷きながら聞き、その意見に対し自分の意見を並列的に述べたり、重ねたり、とてもよく考え発言してくれます。誰かに決めてもらった「0か100か」ではなく、大事なことはしっかり自分で考えて行動しようとする3年生であると感じます。

学校生活は集団生活の場です。他人と生活する場なので、当然のことながらルールがあります。行事のシーズンになりましたので、そうした一つ一つのルールが一人ひとりの考える力に繋がっていくことが期待されます。「0か100か」の場面と、自分で考え行動しなければいけない場面が次々に出てきます。先日は「感染防止対策中の寒さ対策について」生徒たちが話し合い、快適に生活できるようなルールを考えてくれました。この後は、各自がよく考えながら行動をとっていくのでしょうか。

年齢を重ねるごとに、「ものの見方・考え方」が変化してきます。様々な生活経験から考え方が奥深くなり、慌てずに対応できるようになるようです。「0か100か」の決め事と、一人ひとりの考えた行動によって日々の生活が成り立つということが、人生を豊かにしていくのではないかと考えます。しかし、「0か100か」にだけしがみついていると、自分で考える事をやめてしまいそうではありませんか。それだけは避けていきたいものです。